Watch!

統計から社会の実情を読み取る

第41回　似ているようで似ていない東アジア人

本川 裕 | Honkawa Yutaka
アルファ社会科学㈱主席研究員

■東京大学農学部農業経済学科卒。㈶国民経済研究協会常務理事研究部長を経て、現職。立教大学兼任講師。農業、地域、産業、開発援助などの調査研究に従事。現在は、ネット上で「社会実情データ図録」サイト（http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/）を主宰するかたわら地域・企業調査等を行う。著作は「物流コストと日本の産業競争力」（学術誌『国民経済』、2004年）、『統計データはおもしろい！』（技術評論社、2010年）、『統計データが語る 日本人の大きな誤解』（日本経済新聞出版社、2013年）等。

東アジア人としての共通性

前回は、社会保障について、アジア諸国は世界の中でも手薄いという特徴があるが、日本はおそらく西欧の影響でやや手厚くなっていることにふれた。今回は、意識や価値観について、アジアと日本の特徴を追ってみよう。

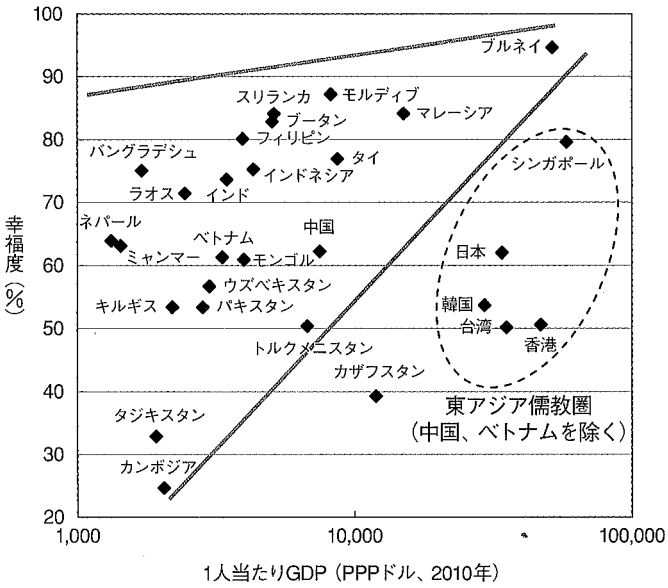
かつて中国文明の影響下にあった東アジア人は、顔つきが似ているだけでなく、価値観的にも、世俗的（脱宗教的）かつ物質主義的という点で、世界の中でも共通の儒教圏と呼ぶべきグループに属している。この点については、第32回（2014年3月号）「イングルハート価値空間」で示したが、ここでは、やはり、東アジア人としての共通性を示す興味深いデータをまず紹介しよう。

図1では、アジアバロメーター調査が調べたアジア諸国の幸福度データと各国の所得水準との相関図を描いた。すでに第7回（2012年1月号）「幸せはお金で買えるか」で示された両者の関係、すなわち高所得国は幸福度が高く、低所得国は幸福度のバラツキが大きいという関係が、アジア諸国でも成り立っていることが分かる。ここで、注目したいのは、こうした関係の中で、日本だけでなく東アジア諸国の国民の幸福度は、概して、経済発展の結果として所得水準が高いわりに幸福度が高くない点である。その理由としては、儒教精神が必要だった時代背景が大きく変容したのに、儒教精神のこだわりだけが残存していて幸せになりきれないからというのが、現在のところの私の仮説である。共稼ぎが普通となったのに、男性だけが一家を支えなければならないという意識に囚われていて、女性の活躍の機会も十分に拡げることができていない点に、これが象徴的にあらわれているのではなかろうか。

こうした点も、東アジアの国民が、世界あるいはアジアの国民の中でも、特殊なグループとしての共通性を有している一例なのだと思われる。

なお、中国やベトナムは、所得水準が低いので、まだ、点線で囲ったグループの外にいるが、今後、所得水準が上がっても、マレーシアやブルネイの方向には行かず、点線の範囲に向かうのではと予想される。また、グローバル化が進んだシンガポールでは、価値観的に東アジア的な色彩が薄められ

図１　アジア諸国における所得水準と幸福度の相関



注）　幸福度は回答選択肢である「非常に幸せ」、「かなり幸せ」、「どちらでもない」、「あまり幸せではない」、「非常に不幸せ」のうち前二者計の割合（AsiaBarometer 調査、Inoguchi and Fujii（2012）による）。１人当たり GDP は IMF「World Economic Outlook Database, April 2014」による。
資料）猪口孝編著「アジアの情報分析大事典」（西村書店，2013 年）p.12

たためであろうが、儒教圏グループとしては幸福度がやや高すぎる位置にある点も興味深い。

東アジア人の多様性

東アジア４か国で共同して行われている EASS 調査は「東アジアに特徴的な価値観や習慣をより深く分析したいという、共通の願いの中から生まれました」（元資料のまえがき）とされており、図２に示したデータは、この趣旨に沿い、いわゆるアジアに特有とされる価値観への賛否について調べた結果である。

まず、第一に気づかされるのは、日本人の「あいまいさ」である。価値観自体が曖昧なのか、あるいは価値観の明確な表明を嫌うのかは不明であるが、日本人は、「どちらともいえない」がすべての設問において、他の３か国の国民に比べて、大きな割合を占めている点が目立っている（無回答の部分は各国すべてで0.6%以下と小さい）。

次に、評価点を参考にしながら各国の特徴をパターン分けしてみると、以下の通りである（図２附表参照）。

Ａパターンは、経済発展度に沿って薄くなる価値観である。社会の近代化により、父権主義や郷土主義が薄れる一方、高度成長から成熟経済に向かうとリスクを取らなくなるという傾向をあらわしているといえる。

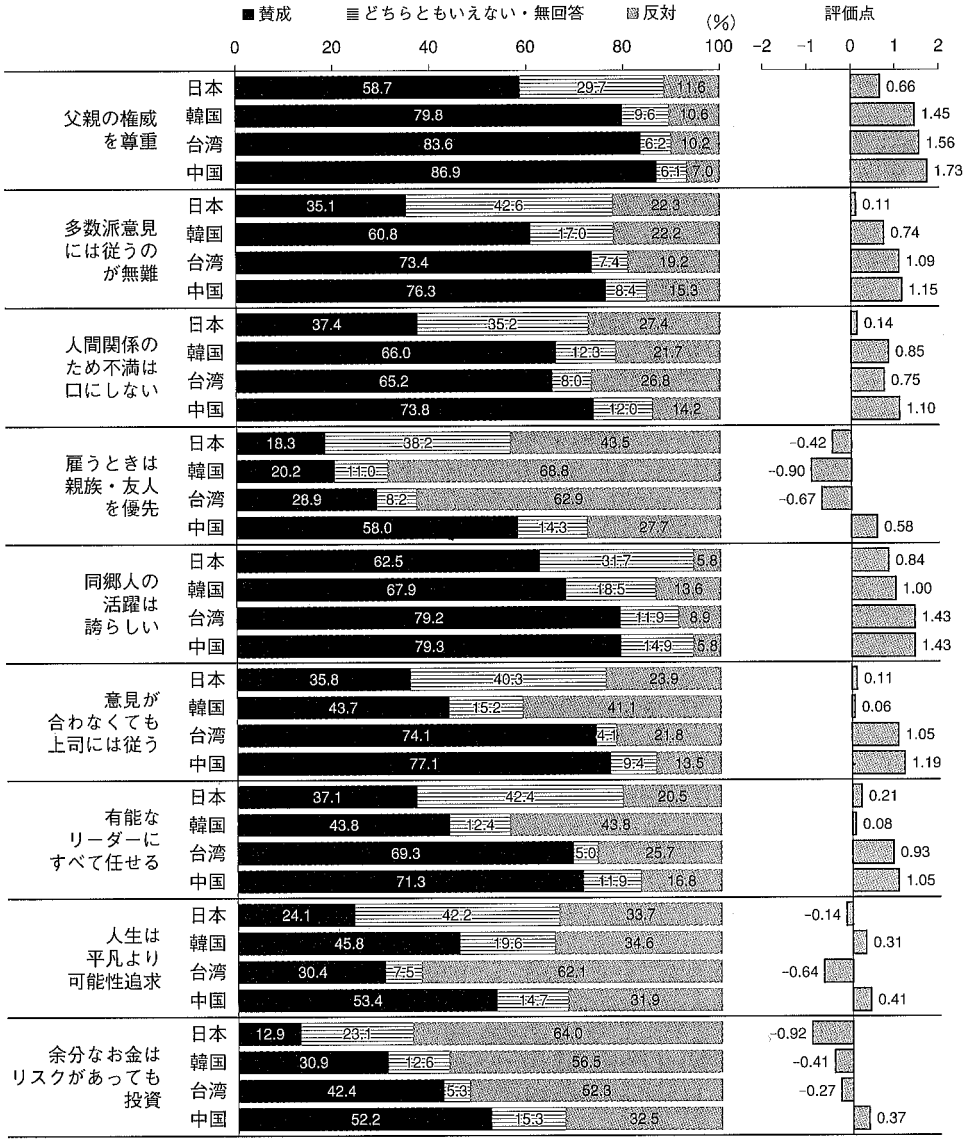
集団主義をあらわすＢと上意下達をあらわすＣについては、欧米から個人主義の未発達として批判されることが多い一方で、東日本大震災の際に示した日本人の統率と秩序を保った行動への高い評価のように賞賛される場合もある。しかし、日本人は、ＢもＣも価値観としては他の東アジア人と異なり肯定的でない点が特徴的である（Ｃは韓国人も肯定的でない）。実際の行動は価値観の通りではなく、日本人は集団主義的で、それ以外の東アジア人は個人主義的という印象がある。それだけに、日本人以外にとってはこの価値観が重要だとされているのに対して、日本人の集団主義には、もともとこうした価値観は不要なのであろう。あるいは、日本人の場合は、心が半分欧米人なので、アジア的な価値観は、意識調査の回答としては一応否定して見せているという解釈もありえるだろう。

Ｄは、日本人は台湾人とともに平凡もまたよしとする人生観をもっていることを示している。

Ｅは、中国人だけが縁故主義（ネポティズム）を価値観としても肯定している点に特徴があり、中国における官僚の腐敗問題の根絶の難しさを示しているといえる。

以上のように、同じ東アジア人であるとはいっても、その価値観はさまざまである。

図２　アジア的価値観の各国比較（日本・韓国・台湾・中国）



（附表）回答結果の国別パターン

パターン	該当する項目
A．中国＞台湾＞韓国＞日本	「父親の権威を尊重」 「同郷人の活躍は誇らしい」 「余分なお金はリスクがあっても投資」
B．日本だけが該当しない	「多数派意見には従うのが無難」 「人間関係のため不満は口にしない」
C．台湾・中国 vs 日本・韓国	「意見が合わなくても上司には従う」 「有能なリーダーにすべて任せる」
D．韓国・中国 vs 日本・台湾	「人生は平凡より可能性追求」
E．中国だけが該当	「雇うときは親族・友人を優先」

注）2008年に実施された国際共同調査（EASS2008）による（各国とも全国の18歳以上男女が対象。ただし、日本は20～89歳男女が対象）。評価点は「強く賛成」「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらともいえない」「どちらかといえば反対」「反対」「強く反対」を+3,+2,+1,0,−1,−2,−3で採点した加重平均。帯グラフの「賛成」の値は最初の三つの合計、「反対」は最後の三つの合計。

資料）大阪商業大学JGSS研究センター「East Asian Social Survey: EASS 2008 Culture Module Codebook」2010年3月

表１　子どもに教えたい徳目

「家庭で子どもに教えられる徳のうち最も重要と思うものを二つ選んでください」への回答（%）

	香港語表記	中国	香港	台湾	シンガポール	ベトナム	韓国	日本
独立心	独立性	47.6 ◎	33.9 □	35.7 □	44.7 ○	34.0 □	37.0 □	18.7 △
勤勉	勤奮	43.0 ○	35.7 ○	44.5 ◎	25.6 □	37.3 ◎	25.3 △	8.4
正直	誠実	33.6 □	41.3 ◎	38.3 ○	55.3 ◎	34.9 ○	37.6 ○	32.8 ○
誠実	真誠	11.9	16.7	12.5	18.2	27.3	41.0 ◎	27.5 □
思いやり	関心	6.2	14.8	11.3	6.6	7.0	11.3	65.6 ◎
謙虚さ	謙虚	6.6	14.7	15.8	8.7	7.4	12.0	5.2
信仰心	虔誠	1.6	4.5	3.0	8.4	0.6	7.1	2.4
忍耐	耐性	8.4	12.6	11.3	7.3	11.3	12.1	16.4
競争心	競争性	11.7	3.5	5.5	1.9	2.3	1.8	2.0
年長者を敬う	尊敬長輩	25.2 △	18.2 △	21.0 △	22.3 △	33.9 △	7.3	14.9
教師に従う	尊重老師	3.5	2.3	0.6	0.7	4.0	5.8	0.7
わからない	唔知道	0.1	0.7	0.0	0.1	0.0	0.1	1.1

注）　儒教的な徳目が多いが、信仰心や競争心といった非儒教的な徳目も含まれている。調査は、全国の 20 ～ 69 歳男女が対象（ベトナムは都市部のみ）。サンプル数は各国約 1,000 人（ただし中国は 2,000 人）。層化多段階無作為抽出。面接調査。数値の後に値の大きい順に◎、○、□、△を付加。

資料）AsiaBarometer 2006

日本人の特殊性

さらにもう一つ、親が子に教えたい徳目について調べたアジアバロメーター調査の結果から、東アジア人の重視する精神態度について探ってみよう。

表１に回答結果を掲げ、各国で回答率が高かったものから上位４位にしるしをつけた。表の順番で中国からベトナムまでの各国は、「独立心」、「勤勉」、「正直」、「年長者を敬う」の４つが上位４位を占めている点が共通である。ただし、これらの国の１位項目は、中国は「独立心」、香港、シンガポールは「正直」、台湾、ベトナムは「勤勉」である。

一方、韓国と日本は、トップ項目が、これらの国の４位までの項目でない点が目立っている。すなわち、韓国は「誠実」が１位、日本は「思いやり」が１位である。しかも、日本の「思いやり」は 65.6%と他国の１位項目の比率を大きく上回る値となっている点でも目立っている。

他の項目では、他国と比較し、韓国は「教師に従う」が最も多く、日本は「忍耐」が最も多い点も特徴的である。

回答結果には、徳目の各国語表現によるニュアンスの差も影響していると考えられる（参考までに、香港における中国語表現を示しておいた）。しかし、日本人が子どもに教えるのに「思いやり」と「忍耐」という他の東アジア人がそれほど重視していない徳目に特にこだわっている点だけは確かであろう。図２の結果も考慮に入れると、日本人の集団主義は、集団や上位者の意思に対して無原則、無批判に従うことによる規範的な集団主義ではなく、子どもの頃から自らが属する集団の各構成員が置かれている状況に対して充分に配慮し、自己主張の余り彼らを傷つけることのないようにする訓練がなされることによる機能的な集団主義なのだと考えてもよいのではなかろうか。

日本人が他の東アジア人と異なるのは、いちはやく西欧のやり方を取り入れたことによる側面と、そもそも近代以前から独自のやり方をしてきた側面という二通りがあるだろう。前回紹介した社会保障の特徴は前者であるが、今回紹介した日本人ならではの精神態度は、むしろ後者であるといえよう。

＊「社会実情データ図録」関連図録
[1]　図録 8062「アジア的価値観の各国比較（日本・韓国・台湾・中国）」
[2]　図録 9483「幸せはお金で買えるか（アジア版）」